

九州半導体人材育成等コンソーシアム (第 6 回会合・自由討議)

～ 審議事項 ～

中期行動計画策定

1. Mission Vision Value について
2. K P I (達成目標、活動目標) について
3. Action (活動計画) について

2025年3月25日

< 共同事務局 >

経済産業省 九州経済産業局

(一社) 九州半導体・デジタルイノベーション協議会



中期行動計画策定

Mission・Vision・Value、KPI、Action（活動計画）

1. 幹事会での議論・検討

（幹事会の役割・頻度）

幹事会の役割として、幹事会設置規程（案）第2条で以下の4点を掲げる。

- 一 コンソーシアムの活動指針に関すること
- 二 コンソーシアムの中期的な活動計画に関すること
- 三 国内・諸外国・地域の関係機関等との連携や協力に関すること
- 四 その他、代表幹事が必要と認める事項に関すること

2. 策定スケジュール

第5回全体会合（10/4）：幹事会設置及び中期行動計画の策定について（報告・承認）

第1回幹事会（12/3）：Mission・Vision・Value について

第2回幹事会（12/20）：Mission・Vision・Value・Action（人材育成）について

第3回幹事会（1/27）：K P I 設定、Action（サプライチェーン・海外）について

（ 1/28～2/7 幹事会（案）とりまとめ ）

（ 2/10～2/28 構成機関への意見照会 ）

（ 3/3～3/10 最終案とりまとめ ）

第6回全体会合（3/25）：最終案について（審議・承認）

中期行動計画策定

Mission・Vision・Value、KPI、Action（活動計画）

3. 最終案の構成

Mission

Vision

Value



コンソーシアムの活動指針

K P I

……

達成目標

活動目標

第一期：2022～2026年度

第二期：2027～2031年度

補足）達成目標は概ね3年毎（次回2027年3月頃）、活動目標は毎年秋にレビュー可能

※達成目標の一部は毎年秋にレビュー可能

Action

……

活動計画

第一期：2022～2026年度

第二期：2027年度～

(参考) 幹事及び構成員一覧

1	代表幹事	三菱電機株式会社パワーデバイス製作所	所長	岩上 徹
2	代表幹事	経済産業省 九州経済産業局	局長	星野 光明
3	幹事	株式会社オジックテクノロジーズ	取締役会長	金森 秀一
4	幹事	国立大学法人九州大学	名誉教授	安浦 寛人
5	幹事	国立大学法人九州大学大学院 システム情報科学研究院	教授	金谷 晴一
6	幹事	独立行政法人国立高等専門学校機構 佐世保工業高等専門学校	校長	下田 貞幸
7	幹事	株式会社SUMCO	代表取締役 副社長	龍田 次郎
8	幹事	株式会社スズキ	代表取締役社長	鈴木 清己
9	幹事	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社	代表取締役社長	山口 宜洋
10	幹事	東京エレクトロン九州株式会社	代表取締役社長	林 伸一
11	幹事	株式会社ワールドインテック	代表取締役 社長執行役員	栗山 勝宏
12	幹事	福岡県	商工部長	見雪 和之
13	幹事	宮崎県	商工観光労働部長	川北 正文
14	構成員	国立大学法人鹿児島大学大学院 理工学研究科	教授	青野 祐美
15	構成員	国立大学法人長崎大学 マイクロデバイス総合研究センター	センター長	大島 多美子
16	構成員	公益財団法人 九州経済調査協会	常務理事	岡野 秀之

注) 構成員とは…幹事会設置規程(案)第3条第2項に基づき、代表幹事から幹事会への出席要請を受けた者

【審議事項】

1. **M**ission **V**ision **V**alue について (最終案)

Mission Vision Value (最終案)

Mission : コンソーシアムの使命

半導体で

豊かな未来社会を九州から実現する

Vision : コンソーシアムが目指す姿 (なりたい状態、あるべき姿)

- ・多様な半導体人材が集い生き活きと活躍する九州
- ・半導体とともに歩み成長を続ける九州
- ・グローバルな半導体エコシステムの一翼を担う九州

Value : コンソーシアムがもたらす価値 (やるべきこと、共通の価値観、行動指針)

- ・半導体の魅力発信と人材育成を担う産学官金プラットフォーム
- ・産業競争力の強化に資する半導体バリューチェーン
- ・半導体産業の発展に貢献する九州から世界へのクロスポイント

【審議事項】

**2. K P I（達成目標、活動目標）について
（最終案）**

K P I

(達成目標)

～人材育成・確保～

最終案

第一期：2022～2026年度

第二期：2027～2031年度

【K P I】半導体人材の育成・確保（第一期終了・**2026年度末時点**）の達成目標

「九州半導体人材育成等コンソーシアム」による魅力発信、半導体人材育成・確保の取り組みを通じて、2022年度を起点に、2026年度末時点で累計**40万人**の人材育成を目指す。

1. 九州における半導体人材育成のハブになる

- 構成機関が自らのリソースを持ち寄り、産学官金が繋がり協働する。

2. 九州における理工系人材を増やす（魅力発信）

- 半導体関連学科の志願者数を増やす。

3. 九州で働く半導体人材を増やす（人材育成）

- 新卒の理工系人材の半導体業界への就職比率11%（九州の半導体業界への就職率5.5%）を目指す。
注）現在は就職比率約9%（九州の半導体業界への就職率4.9%）
（1,000人/年の需給ギャップのうち、約200人/年の需給ギャップを解消）

4. 多様な半導体人材を育成・確保する（人材確保）

- 構成機関における女性比率28%を目指す。注）現在は約26%

5. 世界に通用するトップクラスの人材を九州から輩出する

- 産学が連携してドクターを輩出（雇用促進）し、国際学会やLSTC等に送り込む。

【K P I】半導体人材の育成・確保（第二期終了・**2031年度末時点**）の達成目標

「九州半導体人材育成等コンソーシアム」による魅力発信、半導体人材育成・確保の取り組みを通じて、2022年度を起点に、2031年度末時点で累計**140万人**の人材育成を目指す。

1. 九州における半導体人材育成のハブになる

- 構成機関が自らのリソースを持ち寄り、産学官金が繋がり協働する。

2. 九州における理工系人材を増やす（魅力発信）

- 半導体関連学科の志願者数を増やす。

3. 九州で働く半導体人材を増やす（人材育成）

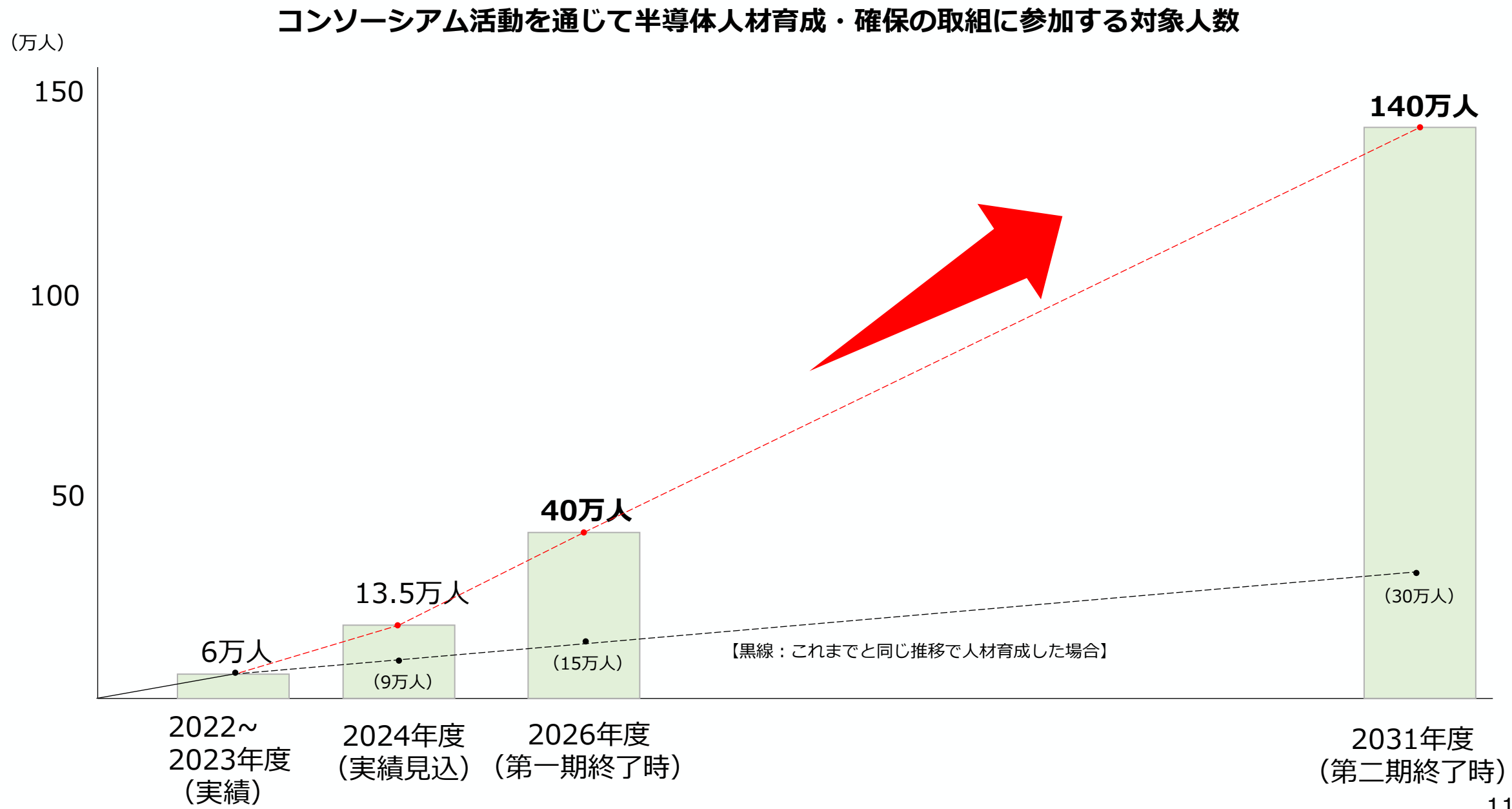
- 新卒の理工系人材の半導体業界への**就職比率20%（九州の半導体業界への就職率10%）**を目指す。
（1,000人／年の需給ギャップを解消するには、九州の半導体業界への就職率が現状の4.9%から8.6%に達することが必要※）

4. 多様な半導体人材を育成・確保する（人材確保）

- 構成機関における**女性比率34%**を目指す。 注）現在は約26%

5. 世界に通用するトップクラスの人材を九州から輩出する

- 産学が連携してドクターを輩出（雇用促進）し、国際学会やLSTC等に送り込む。

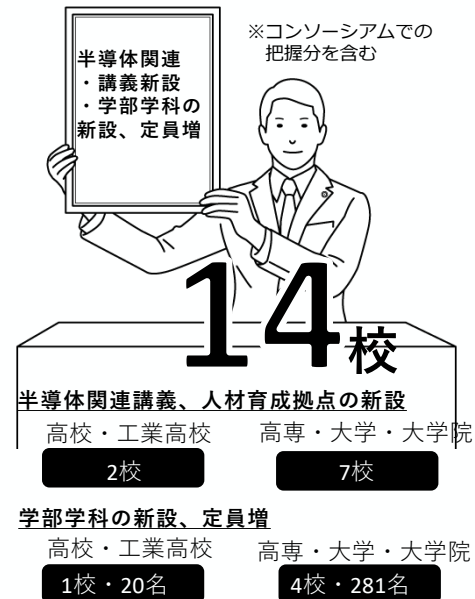
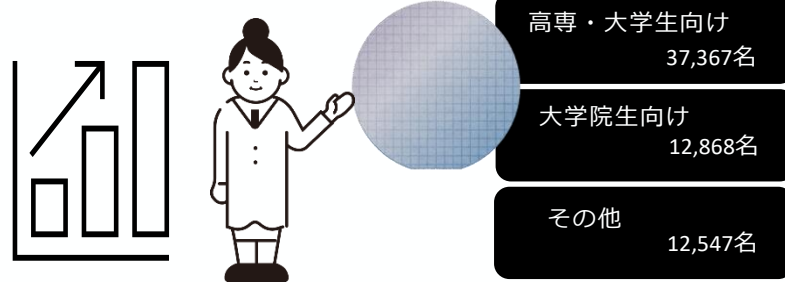


(参考) コンソーシアム活動 (人材育成・確保)

中間とりまとめ

※2022年3月～2024年度見込み

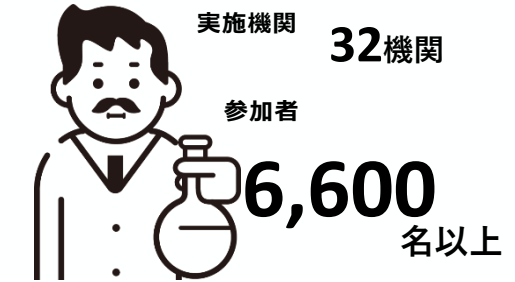
コンソーシアム設立後人材育成・確保に取り組んだ機関数・人材数

74機関 134,663名半導体教育における連携協定
※コンソーシアムでの把握分を含む**10件**

- ・ 九工大×SUMCO
- ・ 佐賀大×SUMCO×産総研
- ・ 長崎大学×長崎県下工業高校等

コンソ設立～2024年度の活動

インターンシップ受け入れ機関数

若年層向けに行う半導体魅力発信のための
ワークショップやイベント、実験キット開発
実施機関数・参加人数

工場見学実施社数・参加人数



出前講義の実施機関数・参加人数



2024年度の活動（予定含む）

(参考) 2023年度調査 半導体関連人材の育成ポテンシャルに関する調査結果

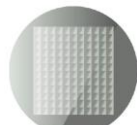
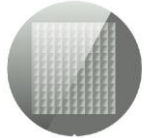
- 九州からは毎年約27,000名の理工系人材が輩出。一方、他産業（自動車など）や九州域外に流出。
- 産学連携による魅力発信、裾野拡大等の取組を強化・継続しつつ、ダイバーシティ推進や他産業からの流入促進等の取り組みが必要。

【産学の課題と対応】 半導体産業／九州の半導体企業が選ばれていない
⇒ 企業情報の発信、産学連携の推進（教育・研究環境を含む）【短期】
⇒ 理工系人材への半導体横断的学習の強化、環境整備【長期】

九州の半導体企業
1,289名／年（新卒）

九州域外の半導体企業
1,116名／年（新卒）※1

就職者数 2,405名



就職

工業高校 732名
高専(本科) 73名
高専(専攻科) 42名
大学 829名
大学院※2 729名

理工系人材
全体の約9%

理工系人材 新卒輩出数
26,530人／年



工業高校

高専

大学・大学院

【学の課題と対応】 理工系人材の絶対数が不足している
可能性が高い。理工系人材の裾野拡大が必要。

- ⇒ 定員増加【長期】、コース・カリキュラムの拡充【短期】
- ⇒ ダイバーシティ推進【短期】
- ⇒ 半導体産業を含む理工系学問の魅力発信【長期】

※1) 海外企業への就業者を含む
※2) 大学院は半導体関係の研究室を抽出して集計
※3) 2023～2026年の採用計画（推計値）



多様な人材活躍に向けた環境整備

- ダイバーシティ推進
（女性、海外人材、文系人材、リスキングによる異分野からの人材流入促進等）

可能性？

九州の半導体人材需要計画は約3,400名／年※3

※令和4年度調査結果（営業／経理等の職種、中途採用等を含む）

注）2021年度の採用実績は約2,300名

【産の課題と対応】

- ・短期間での定員は困難（最低でも3～6年）のため、九州における産業の魅力発信、ダイバーシティ推進、他産業からの人材流入などの活路を探る必要
- ⇒ 実態把握（意識・ニーズ調査、事例収集）【短期】
- ⇒ ロールモデル、ノウハウの横展開【短期】

出所）2023年度NEDO調査結果をもとに九州経済産業局作成。黒字（就職者数、新卒輩出数）はいずれも2022年度（2023年春）実績見込みをもとに（公財）九州経済調査協会による推計値

K P I

活動目標

(第一期・2026年度 終了時点)
～人材育成・確保～

最終案

第一期：2022～2026年度

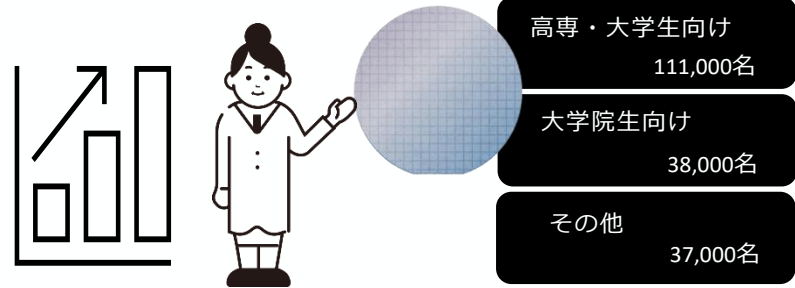
第二期：2027～2031年度

コンソーシアム活動（人材育成・確保） 第一期終了時点（2026年）の活動目標

コンソーシアム設立後人材育成・確保に取り組んだ機関数・人材数

注）人数はいずれも累計

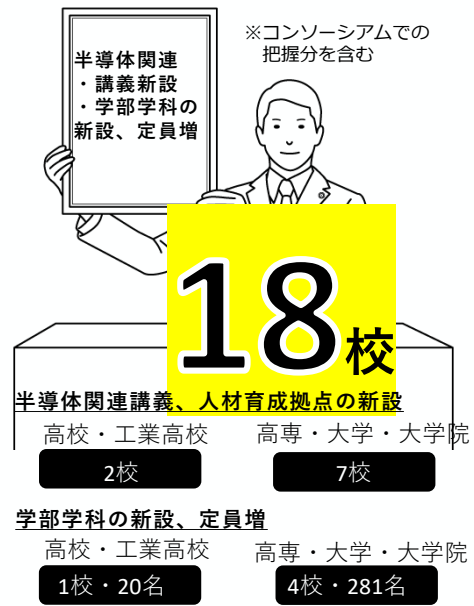
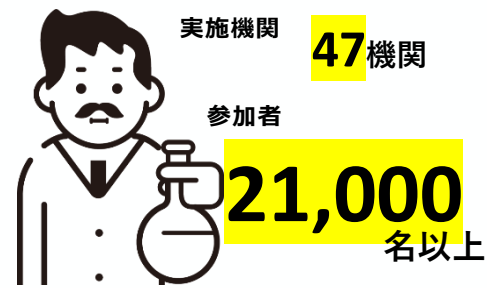
180機関 40万人



インターンシップ受け入れ機関数



若年層向けに行う半導体魅力発信のためのワークショップやイベント、実験キット開発実施機関数・参加人数



半導体教育における連携協定
※コンソーシアムでの把握分を含む



工場見学実施社数・参加人数



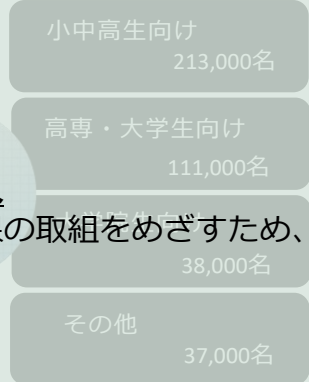
出前講義の実施機関数・参加人数



コンソーシアム設立後人材育成・確保に取り組んだ機関数・人材数

○構成機関の想定 **180機関**

2022年度末：76機関
2023年度末：104機関（36%増）
2024年度末（P）：140機関（34%増）
2025年度末（P）：182機関（30%増）
以降ほぼ横ばい（微増が続く）と想定



○人材育成・確保の取組に参加した人数 **40万人**

2031年までに140万人に対して人材育成・確保の取組をめざすため、
まずは40万人の育成を目指す
2022年度～2023年度末：約6万人
2024年度：約7万5千人
2025年度：約11万5千人
2026年度：約15万人（22～26_計40万人）
2027年度：約16万人
2028年度：約18万人
2029年度：約20万人
2020年度：約22万人
2031年度：約24万人（22～31_計140万人）

※コンソーシアムでの把握分を含む
半導体教育における連携協定
※コンソーシアムでの把握分を含む

○半導体関連学科開設等 **18校**

22～24年（10/4時点）学科開設等を行う教育機関：14校/30機関＝46.7%
24年（10/4時点）教育機関：30機関/全134機関＝22.4%
2026年時点の構成機関＝180機関
2026年時点の教育機関＝44機関（ $180 \times 0.224 = 40.3$ ）
2026年時点の学科開設等を行う機関＝18校（ $40.3 \times 0.467 = 18.8$ ）

○連携協定 **20件**

22～24年（10/4時点）：10件＝約5件/年
25年～26年＝10件
10+10＝20件

- ・ 九工大×SUMCO
- ・ 佐賀大×SUMCO×産総研
- ・ 長崎大学×長崎県下工業高校等

1校・20名
4校・281名

注）人数はいずれも累計

24年度、25年度、26年度の3年の合計で計算
※24年度に初調査のため、PJ毎の人数、取組機関数は24年度からのみ集計可能

○インターンシップ受け入れ **1,900名以上**

（24年度：600名） $600 \times 3 \times 1.1 = 1,980$ 名

○インターンシップ受け入れ **17機関**

（24年度：12機関/134機関＝9.0%） $180 \times 0.09 \times 1.1 = 17.8$

○若年層向けの取組 **21,000名**

（24年度：6,600名） $6,600 \times 3 \times 1.1 = 21,780$ 名

○若年層向けの取組 **47機関**

（24年度：32機関/134機関＝23.9%） $180 \times 0.239 \times 1.1 = 47.3$

○工場見学参加者 **6,900名**

（24年度：2,100名） $2,100 \times 3 \times 1.1 = 6,930$ 名

○工場見学実施 **11社**

（24年度：8社/134機関＝6.0%） $180 \times 0.06 \times 1.1 = 11.8$

○工場見学企画の教育機関・行政 **14機関**

（24年度：10機関/134機関＝7.5%） $180 \times 0.075 \times 1.1 = 14.9$

○出前講義実施機関 **50機関**

（24年度：34機関/134機関＝25.4%） $180 \times 0.254 \times 1.1 = 50.3$

○出前講義参加者 **52,000名**

（24年度：5,000名） $5,000 \times 3 \times 1.1 = 16,500$ 名

K P I

活動目標

(第二期 2031年度 終了時点)

～人材育成・確保～

最終案

第一期：2022～2026年度

第二期：2027～2031年度

コンソーシアム活動（人材育成・確保） 第二期終了時点（2031年）の活動目標

コンソーシアム設立後人材育成・確保に取り組んだ機関数・人材数

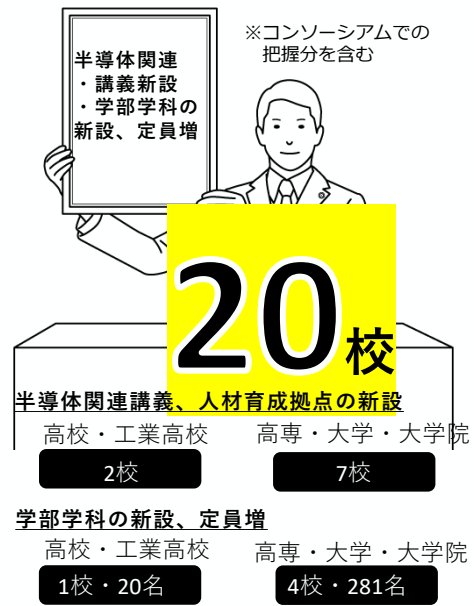
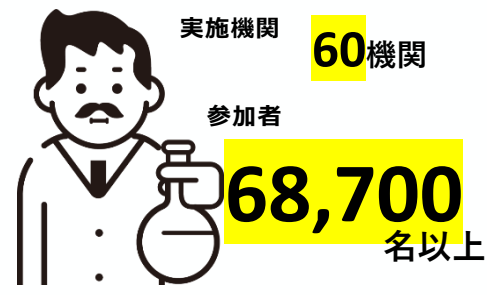
注）人数はいずれも累計



インターンシップ受け入れ機関数



若年層向けに行う半導体魅力発信のためのワークショップやイベント、実験キット開発実施機関数・参加人数



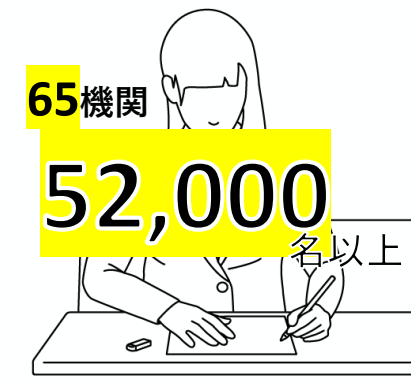
半導体教育における連携協定
※コンソーシアムでの把握分を含む



工場見学実施社数・参加人数



出前講義の実施機関数・参加人数



コンソーシアム設立後人材育成・確保に取り組んだ機関数・人材数

注）人数はいずれも累計

200機関

140万人

小中高生向け
750,000名

高専・大学生向け
380,000名

大学院生向け
130,000名

その他
130,000名

構成機関の想定 200機関

2022年度末：76機関

2023年度末：104機関（36%増）

2024年度末（P）：140機関（34%増）

2025年度末（P）：182機関（30%増）

以降ほぼ横ばいの微増が続くと想定して200機関

人材育成・確保の取組に参加した人数 140万人

九州の人口約1,400万人

半導体関連学科開設等 20校

22～24年（10/4時点）学科開設等を行う教育機関：14校/30機関＝46.7%

24年（10/4時点）教育機関：30機関/全134機関＝22.4%

2031年時点の構成機関＝200機関

2031年時点の教育機関＝44機関（ $200 \times 0.224 = 44.8$ ）

2031年時点の学科開設等を行う機関＝20校（ $44 \times 0.467 = 20.5$ ）

連携協定 40件

22～24年（10/4時点）：10件＝約5件/年

25年～31年（7年）＝ $5 \times 7 = 35$ 件

$5 + 35 = 40$ 件

半導体関連講義、人材育成拠点の新設

高校・工業高校 2校

高専・大学・大学院 7校

学部学科の新設、定員増

高校・工業高校 1校・20名

高専・大学・大学院 4校・281名

九工大×SUMCO

佐賀大×SUMCO×産総研

長崎大学×長崎県下工業高校等

24年度～31年度の8年の合計で計算

※24年度に初調査のため、PJ毎の人数、取組機関数は24年度からのみ集計可能

参加者

インターンシップ受け入れ 6,300名

（24年度：600名） $600 \times 8 \times 1.3 = 6,240$ 名

インターンシップ受け入れ 25機関

（24年度：12機関/134機関＝9.0%） $200 \times 0.09 \times 1.3 = 23.4$

若年層向けの取組 68,700名

（24年度：6,600名） $6,600 \times 8 \times 1.3 = 68,640$ 名

若年層向けの取組 60機関

（24年度：32機関/134機関＝23.9%） $200 \times 0.239 \times 1.3 = 62.1$

工場見学参加者 22,000名

（24年度：2,100名） $2,100 \times 8 \times 1.3 = 21,840$ 名

工場見学実施 15社

（24年度：8社/134機関＝6.0%） $200 \times 0.06 \times 1.3 = 15.6$

工場見学企画の教育機関・行政 20機関

（24年度：10機関/134機関＝7.5%） $200 \times 0.075 \times 1.3 = 19.5$

出前講義実施機関 65機関

（24年度：34機関/134機関＝25.4%） $200 \times 0.254 \times 1.3 = 66.0$

出前講義参加者 52,000名

（24年度：5,000名） $5,000 \times 8 \times 1.3 = 52,000$

【審議事項】

**3. Action（活動計画）策定について
（最終案）**

Action

活動計画

～ 人材育成・確保パート ～

最終案

第一期：2022～2026年度

第二期：2027～2031年度

Action（活動計画）

		FY2022 2022/5~	FY2023	FY2024	FY2025 (本会合にて決定)	FY2026 (本会合にて決定)	FY2027~ < 第二期 >
コンソーシアム会合、WG		●会合：5月、3月 ●各WG：年間3回	●本会合：5月、2月 ●各WG：年間3回 ●人材サブWG： 年間3回/3WG	●本会合：10月、3月 ●各WG：年間3回 ●人材サブWG：年間3回	●本会合：10月、3月予定		
①人材育成WG	実態把握・情報収集・調査	【新規】人材不足数調査（産）	【新規】人材教育・輩出力状況調査（学）	【新規】ダイバーシティ環境整備状況調査（産学）	【継続】人材需給ギャップ(フォローアップ)調査（産）	【継続】人材需給ギャップ(フォローアップ)調査（学）	
	半導体産業の魅力発信	【新規】教員向け研修会		【新規】産学ミートアップ事業（福岡、宮崎・鹿児島）	長崎・大分開催 産学ミートアップ事業		
					【新規】九州域外人材への魅力発信検討	九州域外人材への魅力発信	
		教員向け研修会 対象拡大の検討					
	半導体人材の育成	【新規】横断的教育カリキュラムの策定 【新規】産学連携による出前講義（高専）	出前講義 大学・大学院に拡充 工業高校に拡充 文系学生への拡充				
					【新規】「半導体人材育成サポートバンク（仮称）」の運営検討 【新規】中古装置の寄付スキームの検討 【新規】教育機関講義の企業への開放スキーム検討	運用開始、継続改善	
	半導体人材の確保		【新規】モノづくり・半導体関連企業とのジョブマッチング		【新規】構成機関が実施するUIターン人材マッチング等の既存施策との連携検討 【新規】ダイバーシティ推進に向けた環境整備支援の検討	取組の開始	
	横断的な取り組み・将来に向けた取り組み九州域外との連携		【新規】トップ人材育成（検討）	トップ人材	LSTCとの連携		
					【新規】自治体サブWGの設置検討		
③諸外国との連携	諸外国・地域との連携						
		諸外国との連携 台湾との連携			ベトナム・その他諸外国との連携検討		

Action（活動計画）：半導体人材の育成・確保【第一期】

①人材育成WG

1. 実態把握・情報収集・調査

- 「人材需給ギャップ（フォローアップ）調査」の実施【2025年度（産業界）、2026年度（教育界）】
※2022年度調査（産業界）、2023年度調査（教育界）を実施済
- コンソーシアム構成機関における人材育成・確保の取り組み状況調査の実施【2024年度～】【継続】

2. 半導体産業の魅力発信（理工系人材を増やす）

- 「教員向け研修会」の実施【2022年度～】【継続】
- 「産学ミートアップ事業」の実施【2024年度～】【拡充】
- 九州域外の人材をターゲットにした魅力発信の実施検討【2025年度以降～】【新規】
- 半導体産業魅力発信コンテンツのアップデート【2024年度～】【継続】

3. 半導体人材の育成

- 産学連携による「出前講義（高専・大学・大学院）」の実施【2022年度～】【拡充、実施体制強化】
- 横断的教育の促進【2022年度～】【拡充】
 - ・半導体の“横断的教育カリキュラム”の設計（高校～大学・大学院が主対象）
※電気・電子に限らず、機械科などを含む工学部、理学部、文系学生も対象。対象校を拡充して実施
 - ・文系人材向け講義の拡充（教材と講師がポイント。要検討）
- 「半導体人材育成サポートバンク（仮称）」の開設検討【2025年度以降～】【新規】
 - ・産業界が保有する教育プログラム（対外的に提供可能なコンテンツ）や講師（企業OB等を含む）、教育機関側における半導体関連の教育ニーズ（新たに整備・拡充したい講義等）を登録し、コンソーシアムで共有・マッチングを図れないか検討

Action（活動計画）：半導体人材の育成・確保【第一期】

○産学連携による教育・研究環境の充実【2025年度～】【新規】

- ・産業界（主に企業）が廃却予定の装置等を教育機関に提供（寄贈）する仕組みを構築できないか検討（コンソーシアムがニーズ・シーズを仲介）

○教育機関での講義解放【2025年度以降～】【新規】

- ・企業の新入社員やリスキリング向けに、大学等教育機関の一部講義・施設を開放できないか検討

注）企業・教育機関ともにコンソーシアム構成機関を想定

4. 半導体人材の確保（生涯の職業として半導体産業を選択する人材を増やす）

○人材確保支援【2025年度～】【新規】

- ・構成機関が実施するUIターンなどの人材マッチング支援事業への協力検討

○半導体業界におけるダイバーシティ推進に向けた環境整備

- ・ハード・ソフト両面での社内環境整備支援（啓発・ノウハウ共有を中心に）【2024年度：調査】【2025年度～着手】

5. 横断的な取り組み・将来に向けた取り組み、諸外国・地域との連携

○「自治体サブWG（仮称）」の設置検討【2025年度以降～】【新規】

- ・九州の“各地域版コンソーシアム”の担当で組成。教育・社会環境など幅広いテーマで協調領域を探ることが目的

○世界に通用するトップクラス人材の輩出【2023年度～】【継続、新規】

- ・LSTC（大学・地域・産業連携WG）との連携（2024年度～本格化）

○諸外国・地域（大学）との連携可能性について検討【2022年度～】【継続、新規】

- ・2022年度～台湾、P・2025年度～ベトナム等

Action

活動計画

～ サプライチェーン強靱化／海外との産業交流パート ～

最終案

第一期：2022～2026年度

第二期：2027～2031年度

Action（活動計画）

		FY2022 2022/5～	FY2023	FY2024	FY2025 （本会合にて決定）	FY2026 （本会合にて決定）	FY2027～ < 第二期 >
コンソーシアム会合、WG		●会合（5月、3月） ●各WG（年間3回）	●本会合（5月、2月） ●各WG（年間3回） ●人材サブWG（3つのWGを各3回）	●本会合（10月、3月） ●各WG（年間3回） ●人材サブWG（年間3回）	●本会合（10月、3月予定）		
②サブ ライ チェ ン強 化WG	半導体バリュー チェーン構築	・サプライチェーンの実態調 査	【新規】「バリューチェーン構 築ワークショップ」開催	・【新規】「チャレンジマ ート」開催 ・【新規】「テーマ別ワーク ショップ」設置検討 ・【新規】Q-BASSなど各団 体・関係機関との連携強化 検討（マッチングイベント時 など）	チャレンジマーケット 連携企業・内容拡充検討	・「九州半導体関連企業サプ ライチェーンマップ」の更新	
				・【新規】「テーマ別ワーク ショップ」開催 ・【新規】専門家による伴走支援検討 ・【新規】“ニーズ・シーズのマッチングイベント”や “課題解決型イベント”との連携・関係深化 ・【新規】自動車、ロボット、医療等の“出口側” の産業界と“顔が見える”関係作りの検討		マッチング(価値創造)・課題解決イベント 出口側産業との関係性構築	
	地域間連携		【新規】東北地域（レガ シー製造装置のパフォーマ ンス維持等） 【新規】中国地域（ビジネ スマッチング）との連携	地域間連携	・支援機関との連携強化 台湾との交流・商談会 等 ・【新規】各地の展示会等の活用・“九州”とし てのネットワーク強化検討 ・金融機関（Q-BASSなど）との連携強化 （再掲）	台湾との交流・商談会 展示会の活用 金融機関との連携強化	
	物流リスクへの対 応、BCP		・【新規】「災害時相互協 力に関する合意書」締結、 ネットワーク拡大	・【新規】「九州物流網」の 構築（実証検討）	九州物流網構築 実装		
	情報発信		・【新規】サイバーセキュリティ に関するセミナー・自己診 断・WS等開催	セミナー/ワークショップ			
③海外 との連 携強化	調査、 ネットワーク構築	【新規】 諸外国との連携・交 流（台湾）	諸外国との連携 SEMICON台湾				
	海外展開、 取引拡大支援		【新規】MOUに基づく活動 への参画・連携強化 ※SIIQ、九州大	MOUに基づく活動	台湾プロジェクトとの連携検討	産学官拠点の形成	
					【新規】「半導体分野における産学官拠点」形 成の実現に向けた支援・協力検討		
	その他				【新規】支援機関との連携強化（再掲）	支援機関との連携	

Action（活動計画）：サプライチェーン強靱化、海外との産業交流【第一期】

② サプライチェーン強靱化WG

1. 半導体バリューチェーン構築

- “連携（高効率）・棲み分け（適材適所）・Win-Win”でのスパイラルアップのためのニーズ・シーズ探求【2023年～】
 - ・ 「チャレンジマーケット」開催（2024年度～、年2回程度）【拡充】
 - ・ 「テーマ別ワークショップ」開催（2025年度～）
 - ・ 専門家による伴走支援検討（2025年度～）
 - ・ 企業や支援機関等が実施する“ニーズ・シーズのマッチングイベント”や“課題解決型イベント”との連携強化、関係深化（2025年度～）
- “出口側（ユーザー）”産業との交流拡大【2025年度以降～】【新規】
 - ・ 自動車、ロボット、医療等の“出口側”の産業界と“顔が見える”関係作りができないか検討
 - ※例えば、コンソーシアムの仲介による「企業間交流会（SIIQ主催）」への参加、「勉強会開催（産業界から講師招聘）」など

2. 地域間連携

- 既存事業の深耕・連携・ネットワーク強化
 - ・ 地域間連携
 - ※東北地域（レガシー製造装置のパフォーマンス維持等）、中国地域（ビジネスマッチング）との連携【2023年度～】
 - ・ 地域の支援機関（活動）との連携強化【継続】
 - ※台湾との交流・商談会（大分LSIクラスター推進協議会・熊本県工業連合会×台湾電子設備協会（TEEIA））など
 - ※各地で開催される展示会等の活用・“九州”としてのネットワーク強化
 - ※金融機関（Q-BASSなど）との連携強化（特に、商談会・ビジネスマッチング開催時）

3. 物流リスクへの対応、BCP

○供給責任を果たし、災害等へのレジリエンスを高める【2022年度～】【拡充】

- ・「災害時相互協力に関する合意書」締結（2023年度）、ネットワーク拡大【継続】
- ・「九州物流網」構築に向けた実証検討【2024年度～】、実証事業の実施【2025年度】、国内他地域への展開検討

【同左予定】

4. 情報発信

○サイバーセキュリティ、カーボンニュートラルへの対応【2023年度～】【拡充】

- ・SEMIなど主要プレイヤーの動向について、セミナー・自己診断・ワークショップ等による情報提供・啓発

○グローバルサプライチェーン参入に向けた交流機会の提供を検討【2025年度以降～】

- ・優先課題に関するセミナー、テーマ別ワークショップの開催、専門家による伴走支援検討

③海外との連携強化

海外展開、取引拡大支援

○自治体・団体、金融機関（Q-BASS）等との連携強化【2025年度～】【一部新規、本格化】

- ・MOUに基づく活動への参画・連携強化（SIIQ×ITRI、大分LSI・熊工連×TEEIA、その他構成機関によるMOU）
- ・台湾プロジェクト※との連携・協力検討

※九州経済連合会・九州大学・Q-BASS×陽明交通大等が活動中の産学連携プロジェクト

○「半導体分野における産学官拠点」形成の実現に向けた支援・協力検討【2025年度～】【新規】

※産学官プラットフォームとしての支援・協力（必要に応じて新たなサブWG等の設置も検討）